



ハンドブレースティック・キット

マルチプロ 1750 およびマルチプロ WM ターフスプレーヤ用

モデル番号41131

オペレーターズマニュアル

このキットは、芝生に液剤を散布する専用装置のための補助装置（アタッチメント）であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、集約的で高度な管理を受けている公園やゴルフ場、スポーツフィールド、商用目的で使用される芝生に対して液剤を散布することを主たる目的として製造されております。

▲ 警告

カリフォルニア州 第65号決議による警告

米国カリフォルニア州では、この製品に、ガンや先天性異常などの原因となる化学物質が含まれているとされております。

米国カリフォルニア州では、この製品を使用した場合、ガンや先天性異常などを誘発する物質に触れる可能性があるとしてされております。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	-	マシンの準備を行います。
2	ホース用フック 平ワッシャ フランジヘッドナット キャリッジボルト R クランプ スプレーガン・ブラケット	1 2 4 4 2 1	ホースフックとスプレーガン・ブラケットを取り付けます。
3	手動バルブ・アセンブリ ねじ山付きロッド Oリング ホースパーブ	1 4 1 1	バルブ・アセンブリを取り付けます。
4	ホース ホースクランプ	1 1	給液ホースを取り付ける。
5	スプレーガン・アセンブリ ホースクランプ	1 1	スプレーホースを接続する。

注 前後左右は運転位置からみた方向です。

注 このキットの取付けにはねじ山用シーリングテープが必要です。



1

マシンの準備を行う

必要なパーツはありません。

手順

1. 散布装置の中に水や薬液が残っていないことを確認する。薬剤を使用した散布装置は真水で入念に洗浄し、洗浄水を完全に排出する；洗浄手順については散布車両の オペレーターズマニュアル を参照すること。
2. バッテリーのマイナス（-）端子からバッテリー・ケーブルを外す。

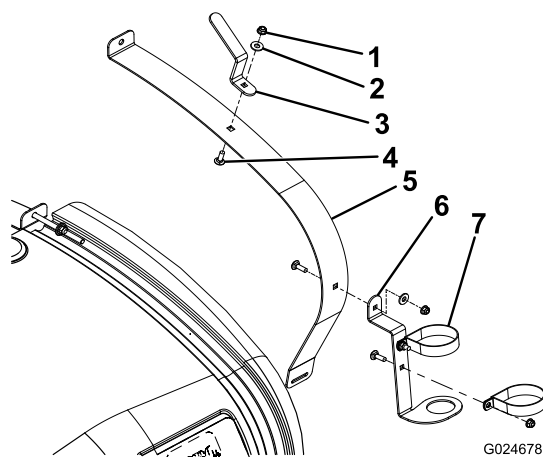


図 1
マルチプロ 1750

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. フランジヘッドナット | 5. 右前タンク固定ベルト |
| 2. 平ワッシャ | 6. スプレーガン・ブラケット |
| 3. ホース用フック | 7. R クランプ |
| 4. キャリッジボルト | |

2

ホースフックとスプレーガン・ブラケットを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ホース用フック
2	平ワッシャ
4	フランジヘッドナット
4	キャリッジボルト
2	R クランプ
1	スプレーガン・ブラケット

手順

1. Rクランプ（2個）を、スプレーガン・ブラケットに取り付ける；キャリッジボルト2本とフランジヘッドナットを使用する。
2. タンク固定ベルトをゆるめる。
 - ・ マルチプロ 1750では、右前の固定ベルトをゆるめる（図 1）。

- ・ マルチプロ WMでは、右後ろの固定ベルトをゆるめる（図 2）。

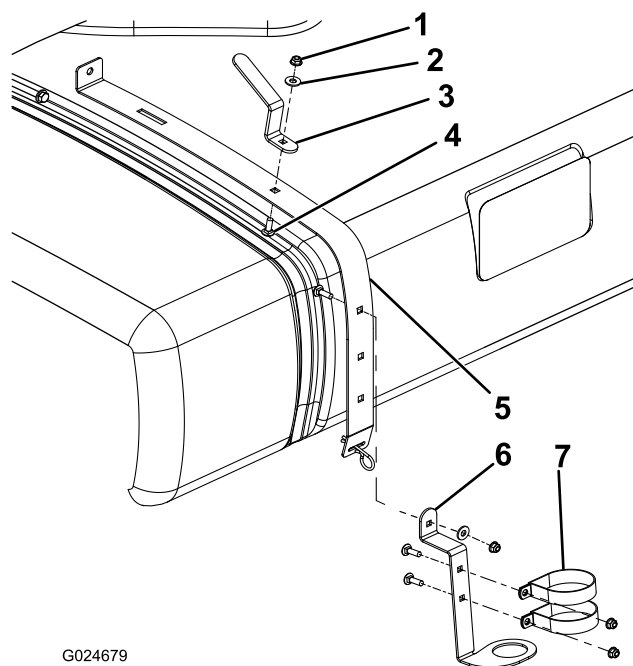


図 2
マルチプロ WM

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. フランジヘッドナット | 5. 右後タンク固定ベルト |
| 2. 平ワッシャ | 6. スプレーガン・ブラケット |
| 3. ホース用フック | 7. R クランプ |
| 4. キャリッジボルト | |

3. スプレーガン・ブラケットを取り付ける；図 1に示すように取り付けるか、図 2 キャリッジボルト、平ワッシャ、フランジヘッドナットを使用する。

- ホース用フックを取り付ける； 図 1に示すように取り付けるか、図 2 キャリッジボルト、平ワッシャ、フランジヘッドナットを使用する。

3

手動バルブを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	手動バルブ・アセンブリ
4	ねじ山付きロッド
1	Oリング
1	ホースバーブ

手順

- 水圧ゲージポートをブームバルブに取り付けているねじ山付きロッド（4本）を外して廃棄する（図 3）。平ワッシャとナットは捨てないこと。

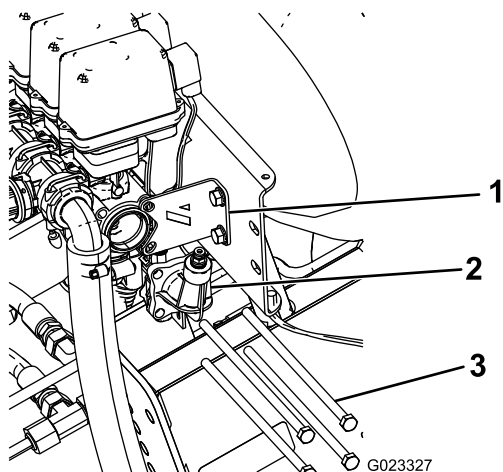


図 3

- スタビライジング・ブラケット 3. ねじ山付きロッド
- 水圧計ポート

- スタビライジング・ブラケットをバルブ・アセンブリに固定しているボルトとナット（2組）を外して保管する（図 3）。
- ねじ山付きロッド（4本）と捨てないでおいたヒラワッシャおよびナットを使って、Oリング、手動バルブ・アセンブリ、先ほど外した水圧計ポート、およびスタビライジング・ブラケットを取り付ける図 4。

注 全部のボルトナット類を、4.5 Nm (0.46 kg.m=32-40 in-lb) にトルク締めする。

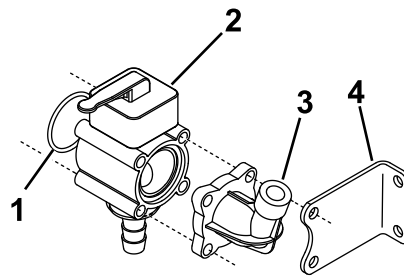


図 4

- Oリング
- 手動バルブ
- 水圧計ポート
- スタビライジング・ブラケット

- スタビライジング・ブラケットのボルトを取り付けレールに固定する。

4

給液ホースを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ホース
1	ホースクランプ

手順

- ホースクランプをホースに通し、ホースを手動バルブのバーブに接続する。

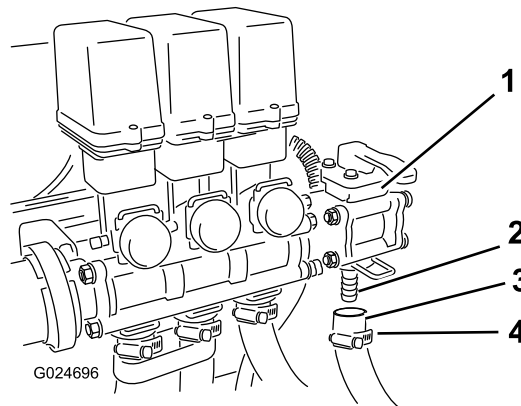


図 5

- 手動バルブ
- バーブ
- ホース
- ホースクランプ

- バーブの上にクランプを移動させてホースをバルブ・アセンブリに固定する。

5

スプレーホースをつなぐ

この作業に必要なパーツ

1	スプレーガン・アセンブリ
1	ホースクランプ

手順

1. スプレーガンホースの自由側端部をスプレーガンのフィッティングに接続する（図 6）。

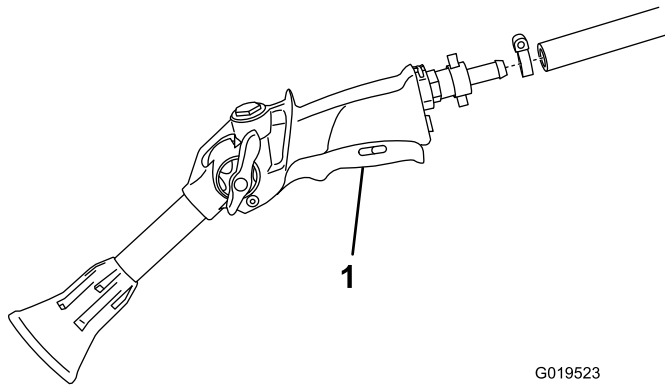


図 6

1. スプレーガン

2. ホースの端をホースクランプで固定する。
3. 余ったホース部分をタンクのフックに巻きつけ、ガンをブラケットに収納する。
4. バッテリーケーブル（マイナスクーブル）をバッテリーに接続する。

運転操作

▲ 警告

高圧の掛かった液体は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こす。

- ・ ノズルから液体が高圧で噴出しているため、絶対に手などを近づけない。
- ・ スプレーヤを人や動物に向けない。
- ・ 圧力を掛ける前に、送液ラインやホースに傷や変形がないか接続部が確実に締まっているかを確認する。
- ・ リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。
- ・ 整備などの作業を行う時は、内部の圧力を確実に解放する。
- ・ 万一オイルが皮下に入ったら直ちに専門医の手当てを受ける。
- ・ 高温の液体や薬品はやけどを起こしたり人体に悪影響を及ぼす恐れがある。

停止モードで作業中にターフを傷つけないために

重要 スプレーヤを停止させた状態で作業中に、エンジンやラジエター、マフラーなどからの熱が原因でターフを傷めてしまう可能性があります。停止モードとは、走行しないで攪拌だけを行う、ハンドガンで手撒きする、歩行型ブームで手撒きするなどを言います。

以下の注意を守ってください：

- ・ 酷暑の時期や極めて乾燥している時期にはターフが大きなストレスを受けているので、ターフ上に停止して散布するのは**避ける**。
- ・ 停止モードで作業する時には、**ターフの上に停止しない**ようにする。可能な限り、カートパスなどに停車する。
- ・ ターフ上に停車する時は、**停車時間をできるだけ短く**する。ターフへの害は温度と時間の両方が影響することを忘れないようにする。
- ・ エンジンの**回転速度をできるだけ下げ**、必要最小限の水圧と水量で作業する。これにより、発熱をできるだけ小さくし、また冷却ファンからの熱風をゆるやかにすることができる。
- ・ 停止モードで作業するときには、エンジンの**熱ができるだけ上に逃げる**ようにエンジンガード&運転席アセンブリを倒し、車体上部に通風領域を確保する。運転席の倒し方については **オペレーターズマニュアル** を参照のこと。

注 熱の害が心配される場合には、車両の下に防熱ブランケットを敷いてください。「ターフスプレーヤ用防熱ブランケット」は、トロの代理店で入手することができます。

ブームスプレー・モードからハンドスプレー・モードへの切り替え

1. 機械を停止し、ブームを OFF にし、駐車ブレーキを掛ける。

▲ 警告

車両を運転しながらハンドスプレーヤを操作するのは非常に危険であり、負傷事故や死亡事故につながる恐れがある。運転中はハンドスプレーヤを操作しないこと。

2. 車両後部にまわり、スプレーガンのトリガーロックがきちんと掛かっていることを確認する。
3. コントロールバルブについているレバーを操作してバルブを開く。
4. 運転席に戻ってポンプを ON にする。
5. マスターブームスイッチを ON 位置にする。
6. エンジンを希望する回転数にセットして、ニュートラル・エンジン速度ロックを ON にする。

重要 手散布モードでは、150 psi (10.5 kg/cm²) 以上の設定にしないでください。

ハンドスプレー・モードからブームスプレー・モードへの切り替え

1. コントロールバルブについているレバーを操作してバルブを閉じる。
2. 液体を噴射しても安全な場所にスプレーガンのノズルを向け、トリガーのロックを外し、トリガーを引いてホースに残った液体を全部出し切る。終わったらトリガーのロックを掛ける。
3. スプレーガンホルダーに戻す。
4. エンジンをアイドリング速度に戻す。
5. ポンプを停止させる。

重要 その日の作業が終了したら、忘れずにハンドガンの内部洗浄を行ってください（手順についてはオペレーターズマニュアルを参照してください）。適切な清掃を行わないと、ガンの性能が損なわれる恐れがあります。

6. レートスイッチで希望する水圧 (kPa または psi) にセットする。

メモ:

メモ:



Count on it.